第 24 号

京都鳥取県友会 会報

発　　行：京都鳥取県友会
発行責任者：佐伯　希彦
令和３年３月吉日発行
事　務　局：075-811-7131

～会員の皆さんお元気ですね？～

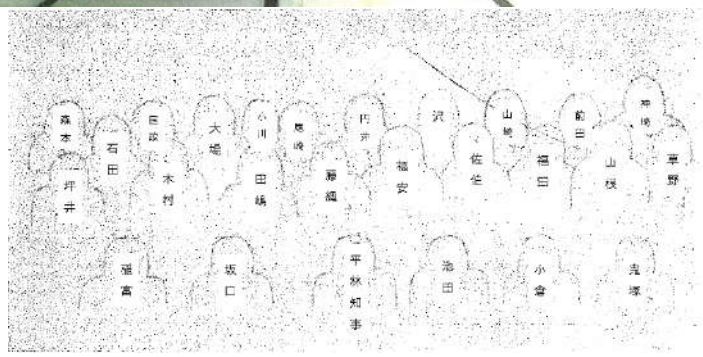
京都鳥取県友会　会長：佐伯希彦

新型コロナウイルスがこれほどまで恐ろしい菌（ウイルス）とお思い知らされています。核の脅威より怖いものではないでしょうか？

我が京都鳥取県友会の活動もほとんど全滅にさせられています。会員の皆さんの顔を見る機会がありません。そのうち私は忘れ去られてしまうのではないかと恐れています。

さて、今回は古き京都鳥取県友会のお話をいたします。丁度、鳥取県３県人（友）の役員懇親会の古い写真が出てまいりました。それを元に思い出話をいたします。

写真をご覧ください。昭和４９年～５４年頃の写真です。参加者の名前が付けてあります。ご親戚の方がいませんか？見て下さい。私の知る写真の人達の説明をいたします。



平林知事の右隣が第３代京都鳥取県友会会長の池田悦治さんです。前列右端は神戸鳥取県人会会長の鬼塚さん（アシックス創業者）です。中列右から３人目は第４代京都鳥取県友会会長の福田光さん（手描き京友禅の権威、竹内栖鳳氏の弟子）そしてその左が私の亡父佐伯香です。（すいません、私事の話をして）後列中ほどの円井さんは、京都鳥取県友会幹事です。（どなたか現会員の方で私の伯父さんだと言っていました。）私は、池田悦治さんを父から紹介され薫陶をたくさんいただきましたのでご披露いたします。池田さんは当時、立命館大学校友会顧問。大日本塗料（株）の社長、鳥取県県政顧問を務めておられました。明治３４年（１９０１年）気高郡青谷町生まれ、昭和３年旧制立命館大学法学部卒業後、文部省入省そして大日本塗料（株）に入社し社長就任。昭和５６年社長を勇退されています。そして平成２年（１９９０年）７月２６日、８９歳ご自宅にて大往生されました。

私が３９歳の時、父が旅先の台湾で亡くなり、驚くばかりの私に池田さんは的確なご教示をいただき弔辞までいただきました。一周忌が過ぎたころ池田さんから県友会員物故者の合同法要を「だん王寺」（京都京阪三条駅近辺）でするから参加するようにとご案内をいただきました。法要の閉会の挨拶に池田さんは物故者の遺児の皆さんは故人のご恩をたくさん授かっている、そのご恩を県友会のために果たさなければならない。よって入会するようにと下命されました。これが私と県友会の繋がりです。

入会してよかった。たくさんのことを教えていただきました。その一つが「因幡の妙好人源左さん」のお話です。源左さんは、今から１８０年前の１８４２年（気高郡青谷町）生まれ１９３０年没、本名足利源左、南無阿弥陀仏の念仏だけで真宗本願寺より妙好人の称号を与えられました。

その源左さんの語録の一部をご紹介いたします。

最初の『一口称えて足らんでなし 千口称えて足ったでなし』は、念仏を何口称えれば念願が叶えられますか？信者の問いに答えられたものです。

かつて鳥取県選出の代議士、相沢英之氏の選挙応援をしていた夫人の司葉子さん（女優・境港市出身）のスピーチに対して池田さんがこの語録を使って締めくくりました。この一口で相沢代議士の落選は免れました。

私の宝物である池田悦治氏絶筆の立命館大学校友会会報１４７号（１９９０年発行）を次回掲載いたします。この３０年前の会報に８９歳の老人が地球温暖化現象の話を掲載されています。そのほか今に通じる含蓄のあるお話があります。お楽しみに！！

若い方の入会を歓迎します。ご紹介ください。（私が入会したのは40歳でした。）

「私のウォーキングコース」

田邉眞人

はじめに

中学、高校と陸上競技部で走高跳をやっていたこともあり、京都市役所に採用された際の体重は、67 ㌔の痩身。それが市役所奉職の間に蓄えた糖質と脂肪分の故に、定年退職時には、110 ㌔の巨漢に。案の定、血糖値も HbA1c（ヘモグロビン・エー・ワン・シー）も上昇に上昇を重ね、毎月１回、糖尿内科へ通院するハメに。栄養指導や投薬の一方で、医師からは、定期的な有酸素運動を強く指示され、そこで一念発起して、１日１万歩確保のため、毎日のウォーキングを始めた次第。

コロナ禍で会食や各行事もままならない中、今回は、近況報告を兼ねて、広報担当の田邉から、私のウォーキングコースを紹介させていただこうと思います。

自宅からトロッコ亀岡駅へ

我が家は、ＪＲ嵯峨野線「馬堀駅」の近所。この馬堀駅を線路沿いに少し京都方面に戻ると「トロッコ亀岡駅」があります。ＪＲの複線電化工事に伴う新たなトンネルの開通で、廃線となった保津川沿いの線路を活用した嵯峨野観光鉄道(トロッコ列車)の終着駅です。なぜか駅構内には大小の信楽焼の狸が十数体ずらりと飾ってあるのがご愛敬。例年、春・秋の観光シーズンには嵯峨・嵐山方面からの観光客で賑わい、帰りは舟で保津峡を下るのが定番の観光ルートとなっていますが、昨シーズンはコロナ禍で寂しい限り。一日も早い収束が待たれます。

桑田神社

トロッコ亀岡駅の東側に隣接して小川が流れています。鵜ノ川(うのかわ)という保津川の支流。最初の小橋「三本木橋」を渡り、そのまま緩やかな坂道を登っていくと、集落のはずれに桑田神社の鳥居が現れます。桑田神社の御祭神は、大山咋命(おおやまくいのみこと)と市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)。湖であった亀岡盆地を開拓するため、保津峡を開削した神様と言われています。境内には紅葉と桜の古木が立ち並び、眼下に広がる保津川の急流はなかなかの壮観。古より、保津川の水運の無事を見守ってきたとのことです。

桑田神社の鳥居

鵜ノ川遊歩道

三本木橋まで戻り、鵜ノ川の堤防道を上流へと進みます。この道はのどかな田園風景に囲まれた遊歩道となっており、とても歩きやすい土道。私のウォーキングコースのメイン部分です。鵜ノ川は清冽な流れで、野鳥も多く飛翔してきます。シロサギやアオサギ、アイガモの家族や川の名の通り川鵜も。時折おしゃれなカワセミも姿を見せます。またこの鵜ノ川、毎年 5 月下旬辺りから蛍が乱舞する蛍川でもあります。急に夜半のウォーキングを楽しむ人が増えてきたら、蛍のシーズンインです。

鵜ノ川遊歩道

篠村八幡宮

さて、遊歩道を歩くこと 30 分足らず。小橋の袂に篠村八幡宮への道標があります。遊歩道は上流にまだまだ続きますが、私は、ここで遊歩道を外れて篠村八幡宮に。この八幡宮は、室町幕府を開いた足利尊氏(高氏)が、北条政権討伐の旗を挙げ挙兵した地として有名です。境内は平坦で広く、巨大な木々が生い茂り、凛とした空気の中に社殿が佇んでいます。また境内社として、乾疫(いぬいえき)神社もあり、八幡宮よりも創建は古く、素戔嗚命(すさのおのみこと)、大己貴命(おおなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこなのみこと)の三柱を御祭神として、丹波方面から都に入ろうとする悪霊・怨霊を鎮めるために創建された我が国最古の疫神社の一つと伝わります。

篠村八幡宮

再びトロッコ亀岡駅へ

整備された旧山陰古道

篠村八幡宮の東側に接して、石畳で整備された道が旧山陰古道。南に向かえば、老ノ坂峠を越え京の都へ。足利尊氏、明智光秀らが燃え盛る思いを抱きつつ駆けたであろう歴史街道です。私はこの道を北へと進みます。昔ながらの土塀に囲まれた民家が点在する農村集落を経て、新興の大規模団地を抜ければ、やがて再びトロッコ亀岡駅が見えてきました。この辺りで、今日のウォーキングを終えたいと思います。お付き合いありがとうございました。本日の所要時間は約 1 時間、7662 歩でした。

「全国高校駅伝」

横川ひとみ

コロナでどうなるかと思われた高校駅伝は、うれしくも 2020 年 12 月 27 日（日）西京極総合運動公園を発着とし実施されました。

鳥取県代表は男女とも鳥取城北高等学校でした。今回もいつものように県友会より激励に出かけました。県友会からは戸塚さんと薮内さん。関西本部からは本部長他１名。コロナ感染防止のため、選手代表としてキャプテンのみの激励会でした。県友会・関西本部ともそれぞれ２名までしか激励に行けず、いつもよりはちょっぴり寂しいものとなりましたが、マスク下の笑顔が素敵でした。当日はテレビの前での応援となりましたが、声援が届いたのか、結果は男女とも大健闘！来年に続く走りになりました。

尚、全国都道府県女子駅伝は中止となりました。屋台村もできませんでした。来年こそは・・・！

（写真：薮内康子）

【お悔やみ】

金内令さんが、2020 年２月１日にご逝去されました。

永年、県友会のためにご尽力いただきました。

謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

父は２月１日に眠るように亡くなりました。最後まで意識がありましたので、私達はゆっくりと別れを言い、孫たちに囲まれて笑っているような顔で旅立ちました。生前は楽しい催しなどにお誘い下さりありがとうございました。皆様との楽しい思い出も沢山あったと思います。皆様、お身体に気を付けてくださいませ。どうぞお元気で。ありがとうございました。

（金内さんの娘さんからの手紙をご紹介）

会員投稿募集

- 幼少の思い出
- 京都に来てからの思い出
- 近況報告

などなど、事務局までお寄せ下さい。お待ちしております。

＜あて先＞

〒６０４－８８７２

京都市中京区壬生御所ノ内町３２

東邦電気産業（株）内

京都鳥取県友会事務局宛

新入会員をご紹介ください

入会には現会員の推薦が必要です。

鳥取県出身の方をご存じでしたら、是非とも事務局までご紹介ください。

ご家族の方の入会も歓迎します。